

富山大学学報

第271号

目 次

関 係 法 令	2	人 事 異 動	9
学 内 規 則	2	学 内 諸 報	10
富山大学学則の一部改正	2	来春卒業予定者の就職事務について	10
富山大学受託研究取扱規則等の一部改正	3	永年勤続者の表彰	10
富山大学文書決裁規則の一部改正	3	昭和61年度北陸地区大学・高等専門学校奨学事 務協議会及び事務説明会の開催	11
富山大学公印管理規則の一部改正	4	海外渡航	12
富山大学当直規則の一部改正	4	寄 稿 <「対中国日本語教育特別計画」に参加 して>	12
富山大学学生会館運営委員会規則の一部改正	4	職 員 消 息	14
諸 会 議	5	主 要 行 事	15
学 事	6	資 料	18
昭和61年度科学研究費補助金交付内定者	6	昭和60年度卒業生就職状況	18
昭和61年度科学研究費補助金申請・採択状況	8		
素粒子物理学1986富山国際会議を了えて	9		

関係法令

法 律

- 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する法律 (73) 5・27
- (注) 廃棄の事業に関する規定の新設、原子力施設に関する検査等の規定の整備が行われた。

(注) 主として下記のとおり改正が行われた。
(昭和62年度入学者より改正後の料金で実施される)

	授業料(年額)	入学科	検定料
学部	256,000→300,000円	120,000→150,000円	19,000→21,000円
大学院	256,000→300,000円	120,000→150,000円	16,000→18,000円

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令 (文部30) 5・27

政 令

- 学校教育法施行令の一部を改正する政令 (183) 5・27
- (注) 市町村の教育委員会が学齢児童生徒等について編製することとされる学齢簿は、磁気テープをもって調製することができることとした。
- 児童手当法施行令等の一部を改正する等の政令 (188) 5・30
- (注) 児童手当を所得により支給を制限する場合の限度額等について改正された。
128万円→133万円

規 則

- 人事院規則16-3 (災害を受けた職員の福祉施設)の一部を改正する規則 (人事院16-3-4) 5・23
- 人事院規則1-4 (現行の法律、命令及び規則の廃止)の一部を改正する規則 (人事院1-4-2) 5・30
- 人事院規則9-83 (給与法第11条第4項の規定の適用に関する特例) (人事院9-83) 5・30

省 令

- 国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令 (文部部28) 5・1

官庁報告

- 国家試験
- 昭和61年度国家公務員採用Ⅱ種試験公告 (人事院) 5・7

学 内 規 則

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和61年5月16日 富山大学長 大 井 信 一

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則 (昭和59年3月12日制定) の一部を次のように改める。

別表第1人文学部の項を次のように改め、

人文学部

人文学科

△哲学

△哲学史

△日本史学

語学文学科

△国語学

△国文学

△朝鮮語・朝鮮文学

△東洋史学	△中国語学
△西洋史学	△中国文学
△考古学	△英語学
△人文地理学	△英文学
△文化人類学	△アメリカ文学
△言語学	△ドイツ語学
△文化構造論	△ドイツ文学
	△ロシア語・ロシア文学
	△比較文学

同表経済学部を次のように改める。

経済学部

経済学科

理論経済学

比較経済論

政策科学

応用経済学

経営学科

経営学

応用経営

管理科学

経営法学科

基礎法

民事法

企業関係法

附 則

この学則は、昭和61年5月16日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

▶ 富山大学学則の改正理由

国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の改正に伴い、別表第1を改める。

富山大学受託研究取扱規則等の一部改正

富山大学受託研究取扱規則等の一部を改正する規則等を次のとおり制定する。

昭和61年5月16日 富山大学長 大井 信 一

富山大学受託研究取扱規則等の一部を改正する規則

(富山大学受託研究取扱規則の一部改正)

第1条 富山大学受託研究取扱規則(昭和45年8月7日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「保健管理センター及び経営短期大学部」を「及び保健管理センター」に改め、同条第2項中「(経営短期大学部にあっては主事)」を削る。

(富山大学発明規則の一部改正)

第2条 富山大学発明規則(昭和53年12月22日制定)

の一部を次のように改正する。

第1条中「経営短期大学部を含む。」を削る。

第5条第1項中「トリチウム科学センター及び経営短期大学部」を「及びトリチウム科学センター」に改め、同条第2項中「(経営短期大学部にあっては主事。以下同じ。)」を削る。

(富山大学公開講座規則の一部改正)

第3条 富山大学公開講座規則(昭和57年11月12日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「富山大学経営短期大学部を含む。」を削る。

第9条第1項中第2号を削り、第3号を第2号とし、同条第2項中「(経営短期大学部にあっては主事)」を削る。

(富山大学と民間等との共同研究取扱規則の一部改正)

第4条 富山大学と民間等との共同研究取扱規則(昭和59年10月26日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「トリチウム科学センター及び経営短期大学部」を「及びトリチウム科学センター」に改め、同条第3項中「(経営短期大学部にあっては主事)」を削る。

附 則

この規則は、昭和61年5月16日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

▶ 富山大学受託研究取扱規則等の改正する規則の制定理由

経済学部経済学科等の拡充改組により、経営短期大学部教官全員が経済学部へ配置換になったことに伴い、所要事項を改める。

富山大学文書決裁規則の一部改正

富山大学文書決裁規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和61年5月28日 富山大学長 大井 信 一

富山大学文書決裁規則の一部を改正する規則

富山大学文書決裁規則(昭和48年12月21日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「定める。」を「定めるものとする。」に改める。

第5条中「決裁者又は」を「名義者又は」に改める。
 第6条を削り、第7条を第6条とする。
 別表第2（人事課関係）の項第6号中「等級別定数」を「級別定数」に改める。

附 則

この規則は、昭和61年5月28日から施行し、昭和60年12月21日から適用する。

▶ 富山大学文書決裁規則の改正理由

- 1 一般職の職員の給与等に関する法律の改正に伴い、所要事項を改める。
- 2 その他字句等を整理する。

富山大学公印管理規則の一部改正

富山大学公印管理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和61年5月28日 富山大学長 大 井 信 一

富山大学公印管理規則の一部を改正する規則

富山大学公印管理規則（昭和48年4月13日制定）の一部を次のように改正する。

別表第2中

「

学生部	富山大学学生部長の印	30	学生課長	学生係長
	学生会館長の印	30	〃	学生会館係長
	富山大学学生部次長の印	23	〃	学生係長
	富山大学学生部学生課長の印	20	〃	〃
	富山大学学生部厚生課長の印	20	厚生課長	厚生係長

を

「

学生部	富山大学学生部長の印	30	学生課長	総務係長
	学生会館長の印	30	〃	〃
	富山大学学生部次長の印	23	〃	〃
	富山大学学生部学生課長の印	20	〃	〃
	富山大学学生部厚生課長の印	20	厚生課長	〃

に、

「

人文 学部	富山大学人文学部・理学部	20	〃	〃
	事務長の印			

を

「

人文 学部	富山大学人文学部・理学部	20	〃	〃
	事務長の印			
	富山大学大学院人文科学研	23	〃	〃
	究科長の印			

に

改める。

附 則

この規則は、昭和61年5月28日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

▶ 富山大学公印管理規則の改正理由

大学院人文科学研究科の設置及び学生部の係を改組したことに伴い、所要事項を改める。

富山大学当直規則の一部改正

富山大学当直規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和61年5月28日 富山大学長 大 井 信 一

富山大学当直規則の一部を改正する規則

富山大学当直規則（昭和61年2月15日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「規定する日」を「規定する休日(以下「祝日法による休日」という。）」に、「年末年始の休暇」を「12月29日から翌年1月3日までの日（祝日法による休日を除く。）」に改める。

附 則

この規則は、昭和61年5月28日から施行し、昭和61年1月1日から適用する。

▶ 富山大学当直規則の改正理由

一般職の職員の給与等に関する法律の一部改正に伴い、所要事項を改める。

富山大学学生会館運営委員会規則の一部改正

富山大学学生会館運営委員会規則の一部を改正する

規則を次のとおり制定する。

昭和61年5月28日 富山大学長 大井 信 一

富山大学学生会館運営委員会規則の一部を 改正する規則

富山大学学生会館運営委員会規則（昭和40年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第3号を削り、同条第4号中「その他、」を「その他」に改め、同号を同条第3号とする。

第8条第1項中「学生会館係長」を「学生係長」に改める。

附 則

この規則は、昭和61年5月28日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

- ▶ 富山大学学生会館運営委員会規則の改正理由
事務の効率化を図るため、学生部の係を改組したことに伴い、所要事項を改める。

富山大学事務組織規則の一部改正

富山大学事務組織規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和61年5月28日 富山大学長 大井 信 一

富山大学事務組織規則の一部を改正する規則

富山大学事務組織規則（昭和39年1月1日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第2項を次のように改める。

2 前項に規定する系の事務分掌については、別に定める。

第7条中第14号を削り、第15号を第14号とし、第16号を第15号とする。

第8条第2号中「歳入歳出外現金」の次に「（保管金を含む。）」を加え、同条第9号中「委任経理」を「委任経理金」に改め、同条第13号を同条第15号とし、同条第12号を同条第14号とし、同条第11号の次に次の2号を加える。

(12) 環境の美化保全に関すること。

(13) 事務電算化の総括及び連絡調整に関すること。

第10条第6号を次のように改める。

(6) 課外活動施設の管理運営に関すること。

第11条第3号を次のように改める。

(3) 学生に対する奨学金及び入学料・授業料等の免除・徴収猶予並びに奨学援助に関すること。

第12条第4号を次のように改める。

(4) 規則等の制定及び改廃に関すること。

第4章を削り、第5章を第4章とし、第6章を第5章とする。

附 則

この規則は、昭和61年5月28日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

- ▶ 富山大学事務組織規則の改正理由

1 経理事務の効率化を図るため、経理部経理課に管理係及び情報処理係を新設したことに伴い、所要事項を改める。

2 その他字句を整理する。

諸 会 議

昭和61年度第1回トリチウム科学センター運営委員会

（5月8日）

（議 題）

(1)昭和61年度学内外共同利用について

(2)昭和62年度概算要求について

第2回入学試験管理委員会（5月13日）

（審議事項）

(1)昭和62年富山大学入学者選抜試験の実施について

(2)昭和62年富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針について

第2回評議会（5月16日）

（審議事項）

(1)富山大学学則の一部改正(案)について

- (2)富山大学受託研究取扱規則等の一部を改正する規則(案)の制定について
- (3)富山大学総合大学院構想について
- (4)昭和62年度富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針について

第2回学園ニュース編集委員会 (5月16日)

(協議事項)

- (1)第52号学園ニュースの編集について

第2回授業料等減免選考委員会 (5月19日)

(議 題)

- (1)昭和61年度大学院・専攻科学生の入学生料免除について
- (2)昭和61年度前期分授業料免除について

第2回補導協議会 (5月19日)

(審議事項)

- (1)第31回大学祭について

第1回入学者選抜方法研究委員会専門委員会 (5月20日)

(議 題)

- (1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和60年度以降(第5期分)の調査研究事項について

昭和61年度第1回附属図書館商議会 (5月29日)

(審議事項)

- (1)昭和61年度附属図書館運営費について
- (2)昭和62年度概算要求について
- (3)昭和61年度大型コレクションの要求について

学 事

昭和61年度 科学研究費補助金交付内定者

研究種目	研究代表者			研究課題	配分予定額(千円)		
	所属	職	氏名		61年度	62年度	63年度
環境科学特別研究	理学部	助教授	道端 齊	沿岸域の海産動物による重金属の生物濃縮とその動態	4,000		
総合研究(A)	"	"	菅井 道三	下等真核植物の光形態形成—細胞及び細胞下レベルでのアプローチ—	3,000		
一般研究(A)	"	教授	広岡 公夫	先史時代の地磁気永年変化と考古地磁気年代推定への応用	1,800		
	"	"	小黒 千足	脊椎動物における血液塩、特にCa, Na, K濃度の内分泌系による制御とその進化	2,100	1,100	
一般研究(B)	人文学部	"	小谷 仲男	東アジア史における文化伝播と地方差の諸相	2,800	500	
	教育学部	"	林 良重	盲学校理科Iの指導用モジュール教材と学習材の開発とその実践化	1,500	1,200	
	理学部	"	佐藤 清雄	稀土類金属とニッケルの金属間化合物の磁性とフェルミ面の関係	800		
	"	助教授	尾島 十郎	新しい大環状共役化合物の合成と物性に関する研究	5,000	1,500	
	"	"	氏家 治	近畿および中部地方の玄武岩質火山岩類の比較岩石学的研究	5,500	400	500
	"	助手	竹内 章	環境線量測定及び古地磁気測定による活断層の年代測定に関する研究	1,400		
	教養部	助教授	石川 義和	高い近藤温度をもつ高濃度近藤物質の研究	5,600	600	
一般研究(C)	人文学部	教授	川本榮一郎	富山県方言の言語地理学的研究	1,000		
	"	"	梶井 陟	日本と朝鮮における近・現代文学の相互交渉に関する史的検証	800	300	

一般研究(C)	人文学部	助 教 授	藤本 幸夫	日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究	500		
	"	"	磯部 彰	李翠蓮・劉前進瓜物語の研究—清代における「西遊記」の展開をめぐって—	1,200		
	教育学部	"	横山 泰行	精神遅滞児、特にダウン症児の肥満に関する研究	800		
	"	助 手	丸山 茂徳	低圧/高圧変成相系列における塩基性岩の鉱物の累進変化	1,400	500	200
	経済学部	助 教 授	高橋 一	逐次分析における二標本問題	600		
	理学部	教 授	田中専一郎	差分方程式の解析的研究	1,400		
	"	助 教 授	道端 齊	高濃度にバナジウムを含むホヤの血球細胞の分離とバナジウムの濃縮機構	600		
	"	"	佐竹 洋	半導体センサーによるPPmオーダー水素ガスの測定と地震科学への応用	1,800		
	工学部	教 授	小林 信之	MLEC法によるGaAs完全結晶を育成するための理論的研究	500		
	"	"	吉田 順作	新しいスパッタ法による垂直磁気記録用薄膜の高速作成	1,300	400	
	"	助 教 授	上羽 弘	金属表面に吸着した色素分子の光学的性質に関する研究	1,200		
	"	"	竹越 栄俊	非定常熱線法による高熱伝導材料の熱伝導率測定に関する研究	600		
	"	講 師	岩城 敏博	無転位半導体結晶の育成に関する応力解析	400		
	"	"	穴田 博	Al-Mg合金鑄塊に生ずる羽毛状晶組織の生成機構とその変形特性についての検討	900	1,400	
	教養部	教 授	藤井 昭二	松島湾及び北上川下流域における完新世の海水準変動	500	400	
	"	助 教 授	中越 矩方	代数体の類数、単数の代数的・解析的研究	900		
	"	"	鈴木 邦雄	日本産カワトンボ属(トンボ目・カワトンボ科)の進化分類学的研究	700	400	
奨励研究(A)	教育学部	"	木下 資一	中世行基伝承の研究	650		
	"	"	濱名 正道	単調完備C*-代数の構造について	1,000		
	"	"	山西 潤一	Logo-Lego学習環境を用いたコンピュータリテラシー育成に関する基礎的研究	900		
	"	講 師	神川 康子	開眼後の脳波における α リズム再現時間による疲労判定	900		
	経済学部	助 教 授	萩野 聡	建築許可行政の研究—特に西ドイツ連邦建設法を中心に—	700		
	理学部	助 手	飯田 敏	セレン酸カリ型誘電体の整合—不整合相転移におけるドメイン壁のピン止め	800		
	"	"	酒井 英男	化学消磁法によるテリエ法の改良および第4紀火成岩類への応用	700		
	"	"	吉田 尚弘	一酸化二窒素の窒素同位体比の硝酸還元系における挙動の解析	900		
	工学部	"	高辻 則夫	難加工7003アルミニウム合金の押出加工性の向上に関する基礎研究	700		
	"	"	高瀬 均	灰分湿式造粒による石炭の脱灰	900		
	トリチウム科学センター	講 師	松山 政夫	ガラスアンブルに封入されたトリチウム量の非破壊測定	1,000		
試験研究(1)	"	教 授	渡辺 国昭	トリチウム計測用質量分析計の開発	6,700	4,100	

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

昭和61年度科学研究費補助金申請・採択状況

(単位：千円)

研究種目	部局名	人文学部		教育学部		経済学部		理学部		工学部		教養部		トリチウム科学センター		計		採択率%
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
がん特別研究	申請																	
	採択																	
自然災害特別研究	申請			1	6,000											1	6,000	0
	採択			0	0											0	0	
環境科学特別研究	申請							1	6,076							1	6,076	100
	採択							1	4,000							1	4,000	
エネルギー特別研究(核融合)	申請									1	7,930			1	9,928	2	17,858	0
	採択									0	0			0	0	0	0	
特定研究	申請							1	1,000	1	2,690					2	3,690	0
	採択							0	0	0	0					0	0	
総合研究(A)	申請	1	9,999					(1) 1	(3,000) 3,000				1	1,360		(1) 3	(3,000) 14,359	33.3
	採択	0	0					(1) 1	(3,000) 3,000				0	0		(1) 1	(3,000) 3,000	
総合研究(B)	申請																	
	採択																	
一般研究(A)	申請							(2) 2	(3,900) 3,900				1	16,190		(2) 3	(3,900) 20,090	66.7
	採択							(2) 2	(3,900) 3,900				0	0		2	(3,900) 3,900	
一般研究(B)	申請	2	7,184	(1) 3	(1,500) 9,121			(2) 7	(2,200) 35,191	3	21,505	3	15,951	1	6,839	(3) 19	(3,700) 95,781	36.8
	採択	1	2,800	(1) 1	(1,500) 1,500			(2) 4	(2,200) 12,700	0	0	1	5,600	0	0	7	(3,700) 22,600	
一般研究(C)	申請	(1) 7	(500) 9,739	9	15,997	(1) 2	(600) 1,597	(1) 35	(600) 80,098	(2) 21	(900) 39,631	10	12,138		(5) 84	(2,600) 159,000	22.6	
	採択	(1) 4	(500) 3,500	2	2,200	(1) 1	(600) 600	(1) 3	(600) 3,800	(2) 6	(900) 4,900	3	2,100		(5) 19	(2,600) 17,100		
奨励研究(A)	申請	2	2,368	8	7,866	3	2,684	10	11,405	6	6,648	3	3,230	2	2,400	34	36,601	32.6
	採択	0	0	4	3,450	1	700	3	2,400	2	1,600	0	0	1	1,000	11	9,150	
試験研究	申請							2	14,600					1	7,475	3	22,075	33.3
	採択													1	6,700	1	6,700	
計	申請	(1) 12	(500) 29,090	(1) 21	(1,500) 38,984	(1) 5	(600) 4,281	(6) 59	(9,700) 155,260	(2) 32	(900) 78,404	18	48,869	5	26,642	(11) 152	(13,200) 381,530	27.6
	採択	(1) 5	(500) 6,300	(1) 7	(1,500) 7,150	(1) 2	(600) 1,300	(6) 14	(9,700) 29,800	(2) 8	(900) 6,500	4	7,700	2	7,700	(11) 42	(13,200) 66,450	
採 択 率 %		41.7		33.3		40		23.7		25		22.2		40		27.6		

(注) ()内数字は継続を内数で示す。

素粒子物理学1986富山国際会議を了えて

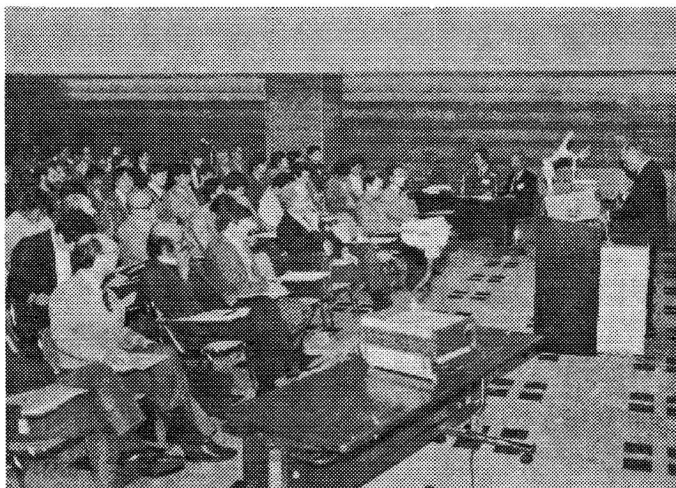
富山大学理学部教授 松 本 賢 一

本学理学部物理学教室が東京大学理学部素粒子物理国際センターと共同主催した「基本力の統一に関する第7回ワークショップと重粒子数非保存に関する1986国際コロキウム」は、成功裡に、4月16日から18日までの富山県民会館での日程を終了した。本国際会議は、これまで6回、毎年米国で行われた「ワークショップ」の米国以外での初めての開催であると共に、過去3回世界各地で開かれた「国際コロキウム」との初の合同会議として、日本で、そして富山で開催されたものである。

今回の国際会議には、国外からノーベル賞受賞者2名を含む50名（米34、伊6、ソ連3、仏2、スイス2、カナダ2、シンガポール1）と国内から105名のエキスパートが参加し、物質の究極の姿と基本力の根源の解明を目指して精力的な討論（29の招待講演による最新の研究の報告とそれをめぐる討論）が行われた。そして、大統一理論の最新理論である「超紐理論」の新しい問題点の解明、既知の4つ以外の新しい基本力の

存在可能性を示唆する理論的及び実験的研究の検討、陽子崩壊の寿命が当初の理論的予想よりはるかに長く 10^{32} 年以上であることの確定等の成果を生んだ。なお、会場での会議終了後、約100名ほどの参加者は岐阜県神岡町に移動し、神岡地下実験場を視察した。

今国際会議のオーガニゼーションは多くの参加者から高い評価—例えば、「これまでのシリーズ中のベストオーガニゼーションの国際会議」（フランプトン国際委員長の閉会へ向けての挨拶）—を得た。それは実行委員会関係者と事務局関係者とのすぐれた（これからは他大学からも参考例となるであろう）協同実行体制の成果であった。それはまた、今国際会議が難関を越えて文部省の助成を受けることとなったこと。そして、富山県並びに県内外の諸財団・富山市・県内外の多くの企業等から支援をいただいたこと等に深く負っている。関係いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



写 真
オープニングセレモニーで
の大井富山大学長の歓迎開
会挨拶
(北日本新聞社提供)

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	61. 5. 16	石 崎 千 代		事務補佐員(庶務部庶務課)	富山大学長

採用	61. 6. 1	能 登 松 美		助手(経済学部)	富山大学長
	"	中 田 義 明		臨時用務員(学生課作業員)	"
	"	亀 谷 順 子		事務補佐員(人文学部・理学部)	"
配置換	"	神 徳 昭 甫	助教授(鳥取大学教養部)	助教授(教養部)	文部大臣
辞 職	61. 5. 31	朴 木 順 子	事務補佐員(人文学部・理学部)	辞職を承認する	富山大学長

学 内 諸 報

来春卒業予定者の就職事務について

このことについて、学生部長から教職員に対して、次のとおり協力方の依頼がありました。

就職協定の遵守について

大学等卒業予定者の就職事務については、大学等関係団体からなる就職問題懇談会において決定された「大学及び高等専門学校卒業予定者のための就職事務に関する申合せ」いわゆる「就職協定」に基づいて実施しているところですが、昭和61年度については、4年制大学卒業予定者の会社訪問開始日(企業と学生の接触開始日)を繰り上げる等新たな申合せが行われました。これを契機に教職員の皆さんの一層の御協力をお願い

します。

記

昭和61年度大学卒業予定者の選考開始時期等
 求人申込みの受理 7月10日以降
 求人内容の学生に対する提示 8月1日以降
 会社訪問開始 8月20日
 就職応募に必要な書類の発行 10月15日以降
 選考開始時期 11月1日

永年勤続者の表彰

昭和61年度富山大学永年勤続者表彰式が、5月30日(金)午前10時50分から事務局大会議室において行われました。

表彰式には、各部局長等多数が列席され、35年勤続及び20年勤続の方々一人ひとりに、大井信一学長から表彰状並びに記念品が贈られ、引き続き学長の祝辞があり、これに対して被表彰者を代表して経済学部早崎寛威事務長から「永年にわたり勤務できたのは、家族と皆様の御協力の賜であり、今後もより一層、職務に精励したい」旨の謝辞がありました。

閉式後、同会議室において、永年勤続者を囲み懇談会が催され、和やかな雰囲気の中に終了いたしました。

(表彰された方々は、次のとおりです。)

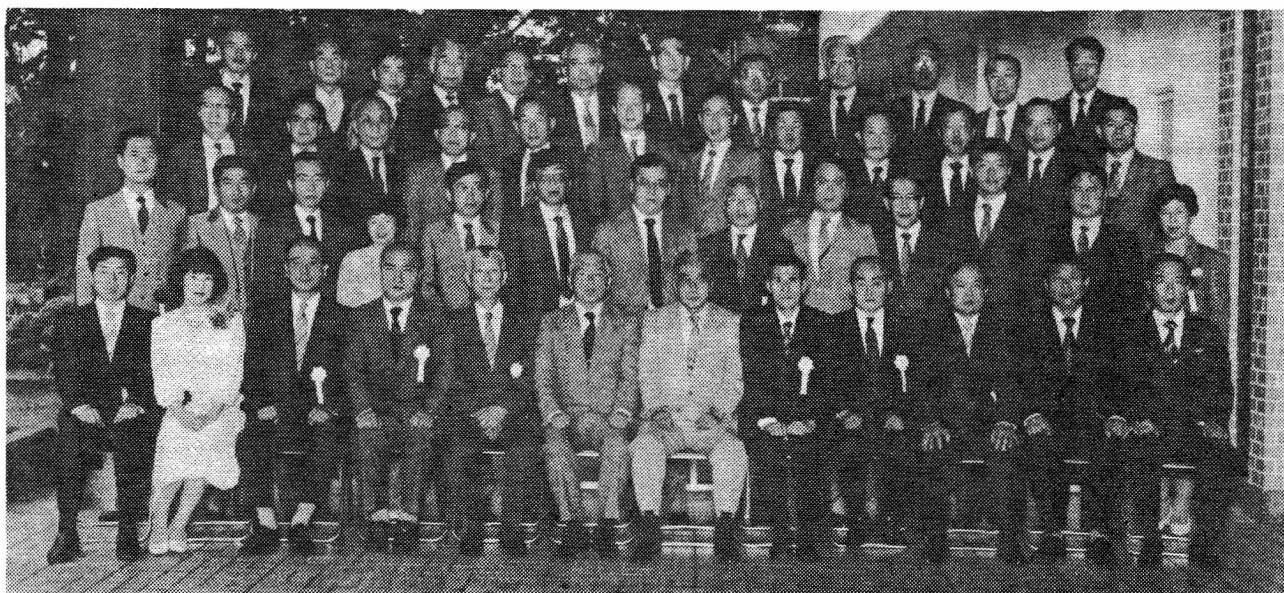
○35年表彰(6名)

人文学部・理学部	石野 俱行
教育学部	廣瀬禮七郎
"	土井 盛治
経済学部	早崎 寛威
工学部	塚島 寛
"	川原 富雄

○20年表彰(28名)

庶務課	野尻津喜夫
"	山本 悦子
経理課	田中 祥男
経理課	羽根 俊
"	高島 仙次
施設課	福山 浩

施設課	山崎 忠吉	工学部	穴田 博
保健管理センター	高尾テルノ	〃	岩城 敏博
人文学部・理学部	山田 知訓	〃	伊藤 紀男
人文学部	本田 弘	〃	中村 優子
教育学部	竹内 茂彌	〃	谷口 泰一
〃	相馬 恒雄	〃	渡辺 秀一
〃	小西 照泰	〃	室谷 和雄
〃	小澤 溯	〃	藤岡 和典
理学部	菅井 道三	教養部	中越 矩方
工学部	畠山 豊正	附属図書館	田中大四郎
〃	坂井 徹	経営短期大学部	岡田 東彦



昭和61年度北陸地区大学・高等専門学校 奨学事務協議会及び事務説明会の開催

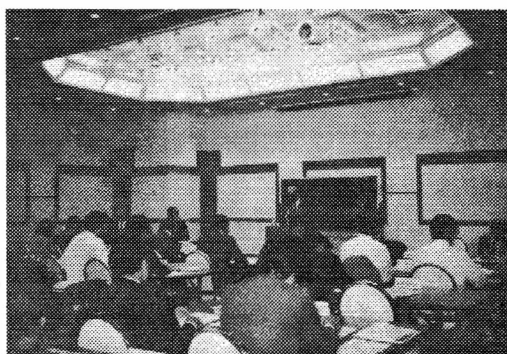
日本育英会が主催する昭和61年度北陸地区大学・高等専門学校奨学生事務協議会及び説明会が、本学を当番校として、5月23日(金)に26校60名の参加をえて高志会館で開催されました。

奨学事務協議会は、昭和61年度事業方針及び総務、広報返還、奨学関係事務について、事務説明会は、奨学事務の新任者を対象とした学校における奨学事務(概要)についての説明があり、盛会のうちに終了しました。

日 程

1. 開 会
2. あいさつ
3. 昭和61年度事業方針について
4. 総務部関係事務について

5. 広報部関係事務について
6. 返還部関係事務について
7. 奨学部関係事務について
8. 奨学事務説明会
9. 閉 会



海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	工学部	助教授	坂井 純一	ソビエト連邦 連合王国 フランス	・プラズマ天体物理国際研究集会に出席，研究発表	61. 5. 17
					・セント・アンドリュース大学で太陽プラズマに関する共同研究及び太陽極大期解析に関する国際シンポジウムに出席，研究発表	61. 7. 8
海外研修旅行	経済学部	教授	武 暢夫	連 合 王 国	近世初期におけるイギリス農業発展の比較的研究	61. 5. 16 } 61. 9. 7
	教育学部	教授	永野 弘	中華人民共和国	杭州機械研究所，北京科学院物理研究所及び西安交通大学において研究打合せ	61. 6. 1 } 61. 6. 7

「対中国日本語教育特別計画」に参加して
—二つの教育研究施設—

人文学部教授 山 口 博

日本語教育特別計画を中国政府と取り決めた。

日本政府の全面的資金援助により，向こう五箇年毎毎年120人の中国研修員の日本語教育を行う計画である。研修員の資格は，中国の大学及び国家の教育機関で，日本語・日本文学の教育を担当している現職の教師であることである。指導には日本政府派遣の講師が当たるが，いうまでもなく中国の教育制度の中に組込まれており，中国教育部（日本の文部省に当る。昨年10月から中華人民共和国国家教育委員会と改称される）の管理下にあり，日本側の責任者とは別に，中国側主任が置かれた。

このようにして，1980年に北京語言学院内に，日本語研修センター（中国側名称は日本教師培訓班，通称は大平学校）が開校した。

日中両国民にとって不幸だったあの戦争の終了にあたって，蒋介石は「怨みに報ゆるに怨みをもってすべからず」と演説し，日本の賠償を辞退した。1972年の日中国交正常化後間もなくの，日本側の全面援助による対中国協力事業は，中国のこの厚情に報いる意があったはずである。また，中国の大学教師の研修が必要になったのは，文化大革命の後遺症があるからである。日中戦争と文化大革命と，今までは遠い存在であった現代中国が，センターに赴任した私に実に重くのしか

私にとっての中国

日本の文学を専攻する私ではあるが，中国にまったく無関心であったわけではない。些かでも専門といえる分野が古代であり，特にアプローチする研究テーマの関係から，中国文学との比較研究を主としている最近は，浅くはあるが，中国に注意を払ってはいた。しかし，それは漢魏六朝隋の世界が殆どであった。現代中国に関しての知識は，一般教養の程度を越えることはないだろう。その基礎が講談社の『中国の歴史』の「近代中国」（佐伯有一著）と，「人民中国の誕生」（野村浩一著）の2巻なのだから，1974年（昭和49年）に刊行された後者は，あの文化大革命についての評価も，必ずしも明確にしているわけではない。それに依っている私は，ここ10年間の激変動する最現代中国についての知識は，かなり乏しいといわねばならないだろう。

その私が「対中国日本語教育特別計画」という，極めて現代的な仕事に関わることになったのである。

第一次対中国日本語教育特別計画

日中平和友好条約が締結された1978年の翌年，訪中した大平総理は対中国協力事業の一つとして，対中国

かってきたのである。

私は1960年3月30日に着任した。中国の学校は4月から後期が始まる。私は5カ年計画の最終年度しかも最終学期に赴任した。既に着任している派遣講師を含めて全13名、第一次計画の総括の役割をも持つことになった。

日本語研修センターの研修生たち

参考のために、第5期研修生118名のデータを挙げて置こう。

1. 年齢

最年長 50歳 最年少 21歳
平均年齢 29歳

2. 男女別

男 69名 女 49名

3. 在籍大学

全国81大学

最多数派遣大学 大連外国語学院 6名
上海外国語学院 6名

大学種別	割合
外語系	29.4%
総合系	24.3%
師範系	18.4%
理工系	17.6%
その他	9.0%

中国の大学の入学競争率は、日本とは比較にならないほど激しい。20倍から30倍ともいわれている。そして更に厳しい選抜によってのセンター入学。彼らはエリート中のエリートであり、中には既に大学院の修了生もいた。

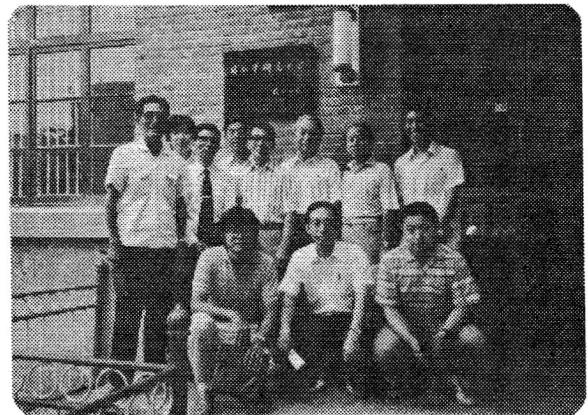
研修生は1年間の研修終了時に、修了論文を提出する。私が指導した古典の専攻生3名の論文は古今集序文・山上憶良・かげろふ日記などであったが、日本の大学生の卒業論文を遙かに凌ぐ成果を挙げている。

第1次計画の修了者500名。彼らは現在日本語日本文学の中核教師として中国全土で活躍している。

日本文学研究センターの発足

第1次計画の終了にともない、第2次計画として、研究者養成を目的とした日本文学研究センターが昨年の9月10日にスタートした。第1次計画を7月に終了させた私たちは、直ちに第2次計画に移行した。

日本文学研究センターは北京外国語学院内に置かれ、2年修了の大学院コースと1年修了の研修コースから



なる。大学院は言語文学専攻課程・社会文化専攻課程各15名。研修コースは30名。言語文学専攻課程の性格やカリキュラムは、第1次の経験に基き中国側と容易に意見の一致をみたが、社会文化専攻課程については、合意に達するまでにはかなり激しい応酬があった。直接に現代中国の国家体制や社会組織に関わる研究がなされるからである。日本の思想史・文化史・社会学は日本側、政治・経済・哲学・英語それに日本史は中国側という講義分担も、数度に亘る話し合いの中から生れてきた。大学院の研究生は、2年次の前期6箇月間、日本に研究留学をする。修士論文の提出資格は修了1年後に生じる。日本と異なり中国はすべての大学院が修士論文の審査権を持つ訳ではない。日本語日本文学専攻のある大学院は17校。そのうち審査権を持つ大学院は北京大学・上海外国語学院・吉林大学・黒竜江大学と洛陽軍事外国語学院の5校だけである。日本文学研究センターもやがては審査権を持つはずである。

日本文学研究の現状の中で

中国における日本文学の研究は、研究というより翻訳・紹介が殆どである。学界の重鎮や中堅がそうであるから、若い人たちも、それが研究だと思い込んでい。センターでの指導はその風潮を戒め、将来の研究動向を予測しながら、研究本来の在り方を教えた。そのことは、研究生たちの修士論文テーマが十分に示している。古典に関しては、

平安女流文学形成の基盤一日中律令比較から一方丈記における無常観

の2編。近代文学については、次の4編、

日本の現代文学における家庭

深沢七郎の文学における反近代主義

国木田独歩の自然観・社会観・人間観

漱石と鷗外の近代観の相違

日本語に関する幾つかを、

アспектに関する日中両語の対照研究
日本語の情意形容詞の語彙史的考察
日中両言語における非断定的表現の考察
ついでに社会文化専攻の論文も、
都市化に伴う日本人の価値観と生活様式の変化
戦後日本の家庭の中の女性の地位
道教と神道
日本仏教における人間像
中国の若い人にとって、日本文化研究の条件は決して良いとはいえない。資料は乏しく、学会の活動も緩慢であり、論文発表の場も少ない。上下の人脈がかなりものをいう世界のような。中国の大学院教育とはか

なり異なる教育を受け、日本人との繋りの濃いセンターの修了生は、中国の学界でどのように受け入れられ、どのような評価を受けるだろうか。帰国した私の許に寄せられてくる、論文についての相談の手紙を読みながら、異国の吾子の将来の幸せを秘に祈るのである。

▶ 筆者は、対中国日本語教育特別計画のための講師として国際交流基金の依頼に基づき、北京外国語学院内にある日本学研究センターで昭和60年3月30日から昭和61年3月29日まで「日本文学に関する研究及び指導」を目的として1年間滞在され帰国されましたので特に原稿を依頼したものです。

職 員 消 息

《新任者住所》

本 部

事務補佐員 石 崎 千 代

臨時用務員 中 田 義 明

教 養 部

助 教 授 神 徳 昭 甫

《住所変更》

教 養 部

助 教 授 鈴 木 孝 志

人文学部・理学部

事務補佐員 亀谷 順子

西村 芳康

経済学部

助 手 能 登 松 美

主 要 行 事

本 部

- 5月7日 国大協臨時総会（於：学士会館）
- 8日 国大協第6常置委員会（於：国大協）
- 9日 学務関係係長会議
北陸地区国立学校事務電算化協議会
第1回定例協議会（於：金沢大学）
定期健康診断胸部X線撮影
- 10日 北陸地区国立大学体育連盟運営協議会
（於：金沢大学）
- 9～10日 東海、北陸地区国立学校等庶務部課長会議
（於：名古屋工業大学）
- 12日 第1回大学案内編集委員会
- 13日 第2回入学試験管理委員会
- 14日 全国大学保健管理協会東海、北陸地方部会
幹事会（於：名古屋大学）
- 15日 工学視学委員の实地視察
- 16日 第2回評議会
第2回学園ニュース編集委員会
中部地区学生補導厚生研究会
（於：愛知厚生年金会館）
- 19日 昭和61年度国立大学事務局長会議
（於：学士会館）
第2回補導協議会
第2回授業料等減免選考委員会
- 19～21日 昭和61年度建築工事積算指針等説明会
（於：京都大学）
- 20～21日 昭和61年度電気工事積算指針等説明会
（於：大阪大学）
昭和61年度機械設備工事積算指針説明会
（於：大阪大学）
- 21日 定期健康診断（教養部）
- 23日 第5回学長選考基準検討委員会
昭和61年度大学・高等専門学校奨学生事務
協議会（於：高志会館）
- 23～25日 第11回体育祭
- 26日 第44回国立大学学生部次長協議会

- （於：横浜国際ホテル）
- 27日 全国学生部次課長会議（於：如水会館）
- 28日 昭和61年度文部省共済組合主管課長会議
国立大学入試担当主管課長会議
- 29～30日 昭和61年度国立学校等経理部課長会議
（於：東京医科歯科大学）
- 30日 永年勤続者表彰
- 31日 開学記念日
- 28日～ 第31回大学祭

人 文 学 部

- 5月1日 大学院人文科学研究科授業開始
- 7日 教務委員会
教授会
教育実習委員会
学生健康診断
- 9日 X線間接撮影
- 10日 入学者選抜方法検討委員会
- 12日 将来計画委員会と施設委員会との合同会議
真率会役員会
- 14日 入学者選抜方法検討委員会
補導委員会（持ち回り）
ソフトボール大会
- 15～16日 第24回人文系学部長会議
（於：琉球大学）
- 20日 総合大学院構想の懇談会
〔理学部・工学部〕（於：工学部）
- 21日 教授会
教務委員会
- 22日 補導委員会（持ち回り）
- 28日 紀要委員会
2年次オリエンテーション
- 30日 施設委員会

教 育 学 部

- 5月7日 大学院設置準備委員会
 附属学校運営委員会
 予算委員会
 人事教授会
- 8～9日 日本教育大学協会学長・学部長等連絡協議会（於：熱海市）
- 13日 教育実践研究指導センター運営委員会
- 14日 学部教務委員会
 教授会
- 15日 日本教育大学協会第二部会音楽部門総会及び全体会（於：金沢市）
- 15～16日 日本教育大学北陸地区美術部門研究協議会（於：福井大学）
- 20～21日 附属小学校研究発表会
- 22～23日 全国国立大学教員養成学部事務長協議会（於：高山市）
- 24日 全国国立大学附属学校連盟校（園）長及び副校（園）長会（於：東京都）
- 24～25日 日本教育大学協会北陸地区家庭科研究協議会（於：上越教育大学）
- 25日 全国国立大学附属学校連盟代議員会（於：東京都）
- 26日 自然観察実習センター運営委員会
- 28日 学部職業補導委員会
 附属学校（園）合同運動会
- 29～30日 日本教育大学協会北陸地区評議会（於：福井市）
 日本教育大学協会北陸地区技術・職業・職業指導部門研究協議会（於：新潟市）

経済学部

- 5月7日 学部教務委員会
 人事教授会
 学部将来構想検討委員会
- 8日 学部施設整備委員会
- 9日 X線間接撮影
 親睦会幹事会
- 12日 X線間接撮影
- 13日 日本海経済研究所運営委員会
- 14日 拡大教務委員会
 人事教授会
 教授会

- 学生定期健康診断
- 19日 学部将来構想検討・学部施設整備合同委員会
 学部補導委員会（持ち回り）
- 22～23日 昭和61年度春季国立11大学経済・経営学部長及び事務長会議（於：山口大学）
- 22日 助手室業務運営委員会
- 26日 学部施設整備委員会
 学部補導委員会
 学部教務委員会（持ち回り）
- 27日 各種委員選考委員会
- 28日 人事教授会
 教授会
 親睦会総会

理学部

- 5月7日 学生健康診断
 学科主任会議
 学部入試改善委員会
- 9日 X線間接撮影
- 12日 真率会役員会
 X線間接撮影
- 14日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
- 21日 国立15大学理学部事務長会議（於：信州大学 理学部）
- 22～23日 国立大学理学部長会議（於：信州大学 理学部）
- 28日 学科主任会議

工学部

- 5月2日 学科主任会議
- 7日 教授会
 工学研究科委員会
 専任教授会
- 8日 係長連絡会
 選考委員会
- 9日 定期X線間接撮影
 学科主任会議

- 12日 定期X線間接撮影
 15日 定期X線間接撮影
 16日 講演会
 演題 産学共同研究について
 —大学の工業教育—
 講師 (株)不二越
 取締役社長 大和田 国男
 17日 入学試験検討委員会
 20日 総合大学院構想の懇談会
 〔理学部・工学部〕 (於：工学部)
 21日 教授会
 専任教授会
 23日 第36回国立大学工学部長会議総会
 (於：長岡市)
 26日 工場運営委員会
 28日 学部改革検討委員会
 学部教務委員会

教 養 部

- 5月7日 教授会
 14日 将来計画委員会
 21日 予算委員会
 教務委員会
 22～23日 全国国立大学教養部長会議・同事務協議会
 (於：茨城大学)
 28日 教務委員会
 教授会
 31日 補導委員会

附 属 図 書 館

- 5月6日 係長事務打合わせ会
 9日 定期X線間接撮影
 12日 定期X線間接撮影
 21日 昭和61年度国立大学附属図書館事務部課長
 会議 (於：東京医科歯科大学)
 26日 係長事務打合わせ会
 29日 第1回附属図書館商議会

トリチウム科学センター

- 5月8日 昭和61年度第1回トリチウム科学センター
 運営委員会
 23日 R・I教育訓練

保健管理センター

- 5月7日 定期健康診断
 (人文,理学部 3,4年生,大学院生)
 8日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部女子学生)
 9日 定期胸部X線間接撮影
 (全教職員,各学部及び教養部女子学生)
 12日 定期胸部X線間接撮影
 (全教職員,各学部及び教養部男子学生)
 13日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部男子学生)
 14日 定期健康診断
 (経済学部 3・4年生,専攻科生)
 15日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部男子学生)
 16日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部男子学生)
 19日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部女子学生)
 20日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部男子学生)
 21日 定期健康診断 (教養部2年生)
 22日 定期胸部X線間接撮影
 (各学部及び教養部男子学生)

経営短期大学部

- 5月12日 授業料等減免選考委員会
 15日 教授会

資 料

昭和60年度卒業生就職状況

・産業別

(昭和61年5月1日現在)

産業別		学 部	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合 計
農 業								
林 業								
漁業・水産養殖業								
鉱 業								
建 設 業		2	2	4		1	9	
製 造 業	食 料 品	1		9			10	
	織 維			3			3	
	印 刷	6	1	2		3	12	
	化 学 工 業		1	7	17	10	35	
	石油・石炭製品							
	鉄 鋼		2		1	2	5	
	非 鉄 金 属	1				6	7	
	金 属 製 品	1		10		6	17	
	一般機械器具	2		4	6	23	35	
	電気機械器具	3		10	13	57	83	
	輸送用機械器具	1		1		30	32	
	精密機械器具		2			2	4	
	そ の 他	4		9	1	22	36	
小 計	19	6	55	38	161	279		
卸 小 売 業	商 事 ・ 貿 易	10		28	1	3	42	
	百貨店・スーパー	11	3	5			19	
	小 計	21	3	33	1	3	61	
金 融 保 險	銀 行	3		16		1	20	
	信 用 金 庫 組 合			19			19	
	保 險 業	2		14			16	
	証 券 ・ 商 品 取 引	3		14			17	
	小 計	8		63		1	72	

産業別		学 部	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合 計
不 動 産 業		1						1
運 輸 ・ 倉 庫 業		1	2	7		3	13	
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道				4		3	7	
マ ス コ ミ	新 聞 ・ 出 版	3		1			4	
	ラ ジ オ ・ テ レ ビ	2		2			4	
	小 計	5		3			8	
サ ー ビ ス	広 告 ・ 観 光 業	4	1				5	
	医 療 保 健 業		2	1			3	
	非 営 利 的 団 体			2			2	
	公 共 企 業 体 等		1	8			9	
	小 計	4	4	11			19	
教 育		19	163	4	20	3	209	
公 務	国 家 公 務 員	3	6	13	2		24	
	地 方 公 務 員	1	4	28	3	1	37	
	小 計	4	10	41	5	1	61	
上 記 以 外 の も の		31	16	30	25	22	124	
合 計		115	206	255	89	198	863	

規 模 別 就 職 先	大 企 業 (従 業 員 数 300人 以 上)	48	8	143	39	153	391
	中 企 業 (従 業 員 数 30~299人)	36	11	59	21	41	168
	小 企 業 (従 業 員 数 29人 以 下)	8	13	3	2		26
	企 業 以 外	23	174	50	27	4	278

・地域別

地方 学部	北海道	東 北	関 東	中 部		近 畿	中 国	四 国	九 州	海 外	合 計
				富山県	その他						
人文学部			24	45	35	8	2			1	115
教育学部				171	33	2					206
経済学部	1	2	60	98	75	19					255
理 学 部			20	45	17	7					89
工 学 部		1	45	63	73	16					198
合 計	1	3	149	422	233	52	2			1	863
%	0.1	0.4	17.3	48.9	27.0	6.0	0.2			0.1	100

昭和61年度全国安全週間

昭和61年7月1日～7日

——みんなで取り組み達成しよう

災害ゼロの明るい職場——

昭和61年度国家公務員安全週間

昭和61年7月1日～7日

——忘れていませんか？ 安全確認

守ってください規則と手順——

- ◎ 退庁，退室の際には，戸締りの徹底・電気，ガスの消し忘れ，タバコの吸殻の後始末に十分注意し，盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

- ◎ 電気，ガス，水の省エネ・省資源に協力しましょう!!



編集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あげぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755(代)